

平成23年度岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）
機関評価評価票（概要）

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 森林・林業の県唯一の試験研究機関として県民から試験研究課題を募集するなど、県民の要請に沿った実用的な試験研究を行っていることは評価できる。 2. 関係各所からの研究ニーズの吸い上げや成果の普及体制、民間との分担体制など業務内容はよく整理されている。 3. 純粋な森林・林業研究に留まらず、たとえば地域社会・生活・文化の存続・発展（過疎化や限界集落、逆に都市部との関係）など、幅広い視野での取り組みが必要であることを行政部局などにアピールしてほしい。 4. 方針については妥当とするものである。林業の成果は長期を要するところであるが短期、中期、長期にテーマを絞り発表し、公表することで研究所の存在を高め知らしめることも肝要である。 5. 試験研究課題については、重点的に取り組むべきものであり、妥当である。					
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている 0人	優れている 0人	妥当 3人	見直しが必要 2人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 森林・林業再生プランに基づき伐採が進められ、種苗の需要が増加することが見込まれている。今後は、優良種苗確保事業予算の充実が求められる。 2. 試験研究の分野が広範にもかかわらず、担当する研究員の人数は少ない。高度な内容のテーマに対処するためには、もう少し専門の分化が必要で増員が望ましい。 また、行政部局との人事交流も、個別事情に十分配慮する必要がある（在籍年数で機械的に異動させることは慎むべき）。 3. 必ずしも潤沢とはいえない予算で、多くの課題をよくこなしている。 4. ヒノキ種子等、高品質が保たれるようお願いする。 5. 今後、国産材時代の予見される中での組織体制、特に予算額については不満とするところである。					
3 施設・設備等	非常に優れている 0人	優れている 0人	妥当 6人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 機器の購入に関して、必ずしも十分な予算を確保できないことも多いと思うが、大学や独法などとの共用を一段と推進して補っていただきたい。 2. 近代的な性能を有する設備を配備することが望ましいが、予算等を考えればやむを得ない。 また、高性能林業機械の自力整備の普及を行う器具の導入を提案したい。 3. 新規に導入された設備備品の稼働状況を把握するなど自己点検のシステムが見えてこない。					
4 研究成果	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 研究成果に関する問合せが県民や林家から多数寄せられていることや、開発したソフトが自県だけでなく他県の業務にも活用されていることは、高く評価できる。 2. 個々の研究成果は一定の水準をクリアし、あるいは秀でている。 3. 中国栗等、研究の成果が県民に普及されつつあることは評価できる。 4. 課題について一定の成果はあったものと評価するが、いずれの課題も終局ではないので、今後も機会あるごとに研究を継続してもらいたい。					

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験等の実施状況	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
--------------------------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 個人、企業等から多岐にわたる内容の技術相談に対応している。
2. 本件の実施状況は把握しづらいが、活動件数から見れば理解できる。しかし、行政検査が3年間無いのが気にかかる。依頼試験も22年度の4件のみであるため、積極的にアピールしてほしい。

6 人材育成	非常に優れている 0人	優れている 0人	妥当 6人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 人員に限られた現況の中で、研修等により多方面の問題によく対処していると認められる。ただし、専門の分化や深化を考えると、このままでは先行きが安心とは言い難い。若い職員の配置や行政との人事交流など弾力的に考慮すべきと考える。
2. 人材育成の評価は、ゴールインと言った結論は出ないものである。技術者の養成には時間と金が掛かるもの。予算を確保し、しっかり対応してもらいたい。

7 他機関との連携	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
-----------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 大学等との共同研究等、他機関との連携が図られている。特に、覚書を締結した岡山大学との連携強化が期待される。
2. 幅広い機関との連携に尽力している。欲を言えば、末端の担当者が気軽に他府県へ情報収集や技術の習得に出かけられるような配慮を期待したい。
3. 他機関と充実した連携研究が出来ていると推察する。森林研究所の限られた予算、人員のなかで、連携は今後も重要であることから更に繋がりを深めていただきたい。
4. 岡山大学農学部等と包括協定を締結して定期的な情報交換を行っていることは高く評価できる。しかし、ナラ枯れ対策、シカ対策などの課題では近隣の県と連携して問題解決に取り組む必要がある。また、林地-農地の区分なく被害が発生するものについては農政サイドとの連携も必要であると思う。これに関しては、農林水産総合センターに統合したのだから研究課題を設定時に協議を行うなど、連携して調査研究を行う体制を構築すべきである。

8 県民への情報発信	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 発表会、講座、印刷物、ホームページと多様な方法で成果を広くわかりやすく公表している。
2. 成果発表会は、林業関係者を中心に毎回盛況と聞いているが、一般県民が気軽に参加できる成果発表会もあつて良い。
3. 成果発表会や森林学習講座、印刷物を通じての発信など、一定の水準に達している。
4. 欲を言えば、県民に問題提起をしながら森林・林業研究の重要性を広くアピールする姿勢をいっそう鮮明にしていきたい。
5. 新聞等を使い、積極的に行われている。
6. 工夫し、検討された発表会等が適切に催されている。できれば県内の主要新聞に大々的に掲載してもらおうよう、働きかけを願いたい。
7. 研究成果をより一層公表して普及啓蒙することを望む。

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 指摘事項に対し、適切に対応している。
2. 充実した取り組みが出来ていると推察する。今後とも県民の付託に応えるべく活動と成果を祈念する。
3. 前回、予算削減が図られるなか、組織として外部資金の獲得を目指す必要性を指摘させて頂いた。(大学でも同じで、競争的資金に申請をしないと校費配分もない。) こうした対応が不十分であると思われる。
委託調査だけでなく、競争的な外部資金獲得のための申請は幾つ行ったのか、その採択状況はどうなのかを開示して、競争的外部資金の獲得に向けた努力と今後の方針を明示する必要がある。

総合評価	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 県民が求める課題に対して研究成果を上げ、その成果をわかりやすく発信していることは高く評価できる。
2. 岡山県の森林・林業の再生、発展のため、必要不可欠な試験研究機関である。
3. 全体的に組織運営、業務運営ともに妥当であるといえる。ただ残念だったのは、委員会での説明は無難にまとめたという印象であったこと。繰り返しになるが、少ない人数で遂行しているにもかかわらず個々の研究課題はきちんと成果が出ており、テーマが広範なことから、各担当者の努力は相当なものであると推察できる。オーバーワークや遂行困難なシーンもあるのではないかと想像するが、そういった窮状を委員会の席で訴えてもらってもよかったのではないか。
4. 個々の問題への対処は概ね妥当であるが、県内の森林に関する将来的ビジョンを行政部局と協力して県民に示すような、大局的な情報発信、アピールも今後考えてはどうか(そういった活動のためにも人材の確保は必要と考える)。
5. 優良種苗の供給、試験結果の普及等、優れている。
6. 予算が削られる中、県民のニーズを吸い上げ、少ない人員で多方面の試験研究に取り組んでおり、県の研究所としての責務を果たしている。今後は、その成果を、関係者以外の一般県民へわかりやすく情報提供し、「おかやま森づくり県民税」を担う強い協力者(サポーター)になってもらい、予算確保につなげてもらいたい。
7. 県土の約7割を占める森林の育成と175千haの人工造林の達成に森林研究所の貢献は、森林・林業関係者のみならず広く県民の周知するところである。
十数年来、住宅の構造が変化し、外材の需要拡大等々により、昨今国産材を取り巻く環境は厳しい情勢であるがグローバル経済の変化により、外材から国産材にシフトする動きや、木材をマテリアルからエネルギーまでトータルに利用し、温暖化防止、低炭素社会への貢献が期待されるなど国産材需要が拡大する気運となっている。
国は、林業再生プランに基づき、10年後に木材自給率50%以上を目指すとしており、実現には相当の戦略と努力が求められる。森林研究所は以前に増して尽力を願いたい。
岡山県は平成16年に全国に先駆けて森づくり県民税を創設した県である。目的に相応した成果を上げるには、最低でも1億円の予算と20名のスタッフを確保するよう努力を願う。
8. 必要に応じて他機関(特に近隣県の試験研究期間)や農政分野との実質的な連携を行う体制を構築するとともに、競争的な外部資金獲得に向けての改善が望まれる。